

令和6年産

大崎稲作情報 第3号

令和6年6月11日発行

宮城県米づくり推進大崎地方本部

大崎農業改良普及センター

TEL : 0229-91-0726 FAX : 0229-23-0910

<https://www.pref.miyagi.jp/site/osnokai/>

今後の管理のポイント

- 中干し前までは、浅水管理や間たん灌水を行いましょう。中干しは有効茎数に達したら行いましょう。
- ※ 生育の遅れているほ場では浅水管理を励行しましょう。
- 補植用苗は速やかに処分し、いもち病の発生を抑えましょう。いもち病の早期発見・早期防除に努めましょう。

1 気象経過（前5か年間平均値との比較）

- 5月後半から最低気温は低く推移し、5月第5半旬から6月第1半旬にかけては最高気温や日照時間も前5か年平均をかなり下回りました。

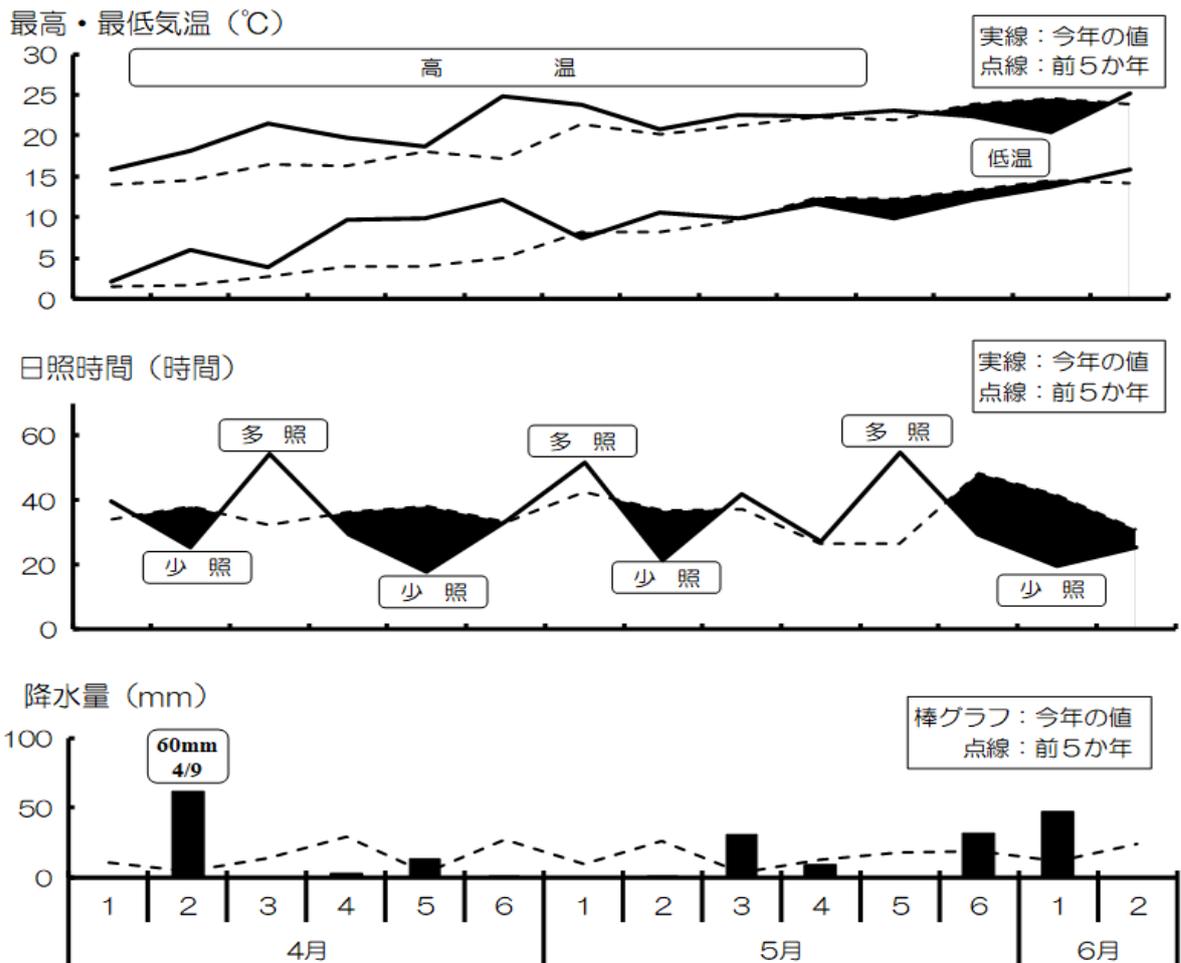


図1 4月～6月第2半旬の気象（古川アメダス）※前5か年平均値との比較

2 生育概況（6月10日現在）

- 6月上旬の低温・少照の影響で、生育は停滞気味です。ほ場平均値の平年比較は、草丈と葉色は並、葉数は+0.2枚（前は+0.5枚）、茎数は78%（前は89%）と増加程度は低下傾向です。茎数は、地域や移植時期によって、ほ場間差が大きくなっています。

表1 生育調査結果

品種名	地区名	田植日 播種日	草丈(cm) (平年比)	茎数(本/m) (平年比)	葉数(枚) (平年差)	葉色(SPAD) (平年差)	備考
※ひとめぼれ	大崎市三本木	5月3日 (-1)	27.5 (98%)	298 (104%)	7.6 (+0.3)	43.6 (-0.6)	
※ひとめぼれ	加美町小野田	5月18日 (+1)	24.2 (88%)	81 (54%)	7.0 (+0.6)	37.0 (-0.2)	
※ササニシキ	大崎市古川	5月6日 (-2)	28.3 (97%)	162 (89%)	6.6 (-0.2)	36.1 (-0.7)	
※つや姫	色麻町四竈	5月4日 (0)	34.6 (117%)	274 (88%)	8.2 (+0.9)	45.4 (+1.0)	前4年比・差
※だて正夢	大崎市三本木	5月9日 (-1)	31.1 (90%)	119 (54%)	7.2 (+0.1)	42.2 (+1.3)	
ひとめぼれ (湛水直播)	加美町米泉	5月4日 (0)	19.0 (114%)	147 (116%)	6.4 (+2.1)	- -	
ササニシキ (乾田直播)	大崎市古川	4月2日 (-)	25.9 (-)	187 (-)	5.5 (-)	- -	新規 条間30cm
ひとめぼれ (乾田直播)	大崎市古川	4月19日 (-)	26.0 (-)	151 (-)	5.2 (-)	- -	新規、大豆後 条間24cm
平均(移植栽培) (平年値のあるほ場のみ)		5月8日 (-1)	29.1 (98%)	187 (78%)	7.3 (+0.3)	40.9 (+0.2)	

※田植日の+は遅いことを、-は早いことを示す。

※平年比・差は前5か年（令和元～5年）の平均値との比較。「つや姫」は前4か年（令和2～5年）の平均値との比較。

3 今後の管理

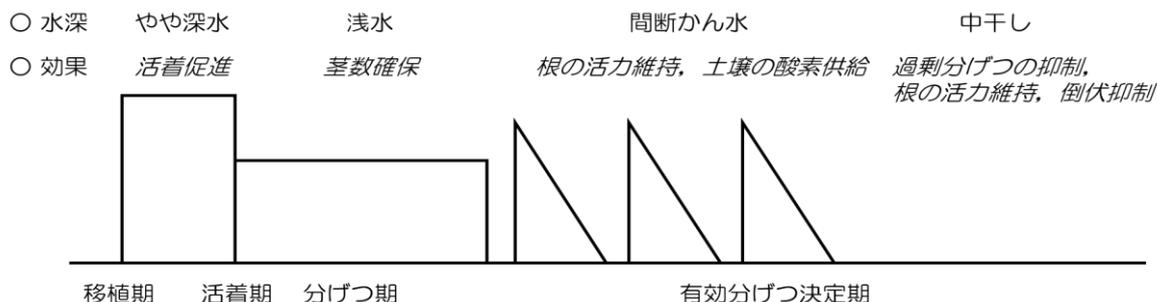
1) 水管理 浅水管理・間断かん水の実施

水管理は稲の生育を調整し、その後の収量・品質に影響する重要な管理です。天候や生育状況に応じて、適切な水管理を行いましょ。

- ✓ 生育回復の遅れているほ場では浅水管理により、分けつの発生を促しましょ。
- ✓ 根の活力維持のため、間断かん水と中干しを行いましょ。中干しは目標茎数に達したら実施しますが、今年度は茎数の増加が緩慢なので、生育状況をよく確認の上実施しましょ。

目標茎数の目安

ひとめぼれ 410本～460本/m²
 ササニシキ 480本～510本/m²
 だて正夢 360本～400本/m²
 つや姫 400本～440本/m²



2) いもち病防除 補植用苗は速やかに処分

- ✓ 補植用苗（残苗）は本田でのいもち病発生の原因になります。補植作業が終了したら速やかに処分しましょう。
- ✓ 残苗でいもち病を確認した場合、周辺の稲で発生していないか確認しましょう。
- ✓ 飼料用米や直播栽培などで箱施用剤を施用していない場合は、水面施用剤を散布しましょう。

◆◆◆◆◆春の農作業安全確認運動実施中（3月1日～6月30日）◆◆◆◆◆

農業機械作業による死亡事故割合が高い状況を踏まえ、①ほ場周辺の危険箇所の確認・改善及び危険回避行動の実践、②シートベルトとヘルメットの着用、③安全フレーム・キャブ付きトラクターの使用を呼びかけを行います。

重点推進テーマ 「学ぼう！正しい安全知識 ～機械作業の安全対策と熱中症の予防策～」

◆◆◆◆◆農薬危害防止運動（6月1日～8月31日）◆◆◆◆◆

6月から8月にかけて、農作物等の病害虫が発生しやすく、農薬を使用する機会が最も多くなる時期です。農薬安全対策の不備や不注意等による事故が発生しやすくなるため、農薬使用による危害防止と環境に配慮した適正な農薬の使用を徹底しましょう。

運動のテーマ 「守ろう 農薬ラベル、確かめよう 周囲の状況」

東北地方 1 か月予報

（6月8日から7月7日までの天候見通し）

令和5年6月6日

仙台管区气象台 発表※抜粋

<特に注意を要する事項>

期間の前半は、気温がかなり高くなる見込みです。

<予想される向こう1か月の天候>

期間の前半は、天気は数日の周期で変わるでしょう。期間の後半は、平年と同様に曇りや雨の日が多いでしょう。平均気温は、高い確率70%です。

<向こう1か月の気温、降水量、日照時間の各階級の確率（%）>

		低い(少ない)	平年並	高い(多い)
【気温】	東北地方	10	20	70
【降水量】	東北地方	30	40	30
【日照時間】	東北地方	30	40	30

<気温経過の各階級の確率（%）>

		低い	平年並	高い
1 週 目	東北地方	10	20	70
2 週 目	東北地方	10	20	70
3～4週目	東北地方	20	40	40

「大崎地域の稲作技術情報」、「大崎地域の大豆作技術情報」、「大崎地域の麦作技術情報」は、当普及センターのホームページでもご覧いただけます。インターネットで「大崎農業改良普及センター」と検索または右のQRコードを読み取ってください。

